

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4391200138 | | |
| 法人名 | 有限会社 明和 | | |
| 事業所名 | グループホーム 純心苑 | | |
| 所在地 | 熊本県上天草市大矢野町登立1426-4 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年10月7日 | 評価結果市町村受理日 | 令和2年11月17日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」 | | |
| 所在地 | 熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5 | | |
| 訪問調査日 | 令和2年10月22日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道266号線に面しており、にぎやかな通りとなっている。近隣には娯楽の場所や飲食店もあり、静かな環境ではないが、利用者の方が離れた場所にやられた的な思いになることは少ないと思う。しかし、離苑の心配は大きい。隣に有料老人ホームやデイサービス事業所もあり、ボランティアなどでの演芸等がある時は一緒に過ごせることもあり、地域の方々と交流は可能である。外出希望等の訴え時にはドライブで出かけることができる施設も近くに多くあり、楽しんでいただける環境である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは元病院の2階を改修してつくられているが、居室やリビング・廊下など、居心地の良いホームとして上手く改修されている。入居者に「好きなように楽しく過ごしてもらうのが一番」として、理念に沿って一人ひとりの想いに寄り添ったケア・自分らしく生き生きとした暮らしができるよう努めている。編み物が得意な人の部屋には毛糸、パズルが好きな人の部屋にはパズルのピースが置かれ、それぞれの意向に沿った暮らしができるよう支援している。また、ベッドには安心のために懐中電灯が置いてあったり、自分で起き上がるための紐や自分でトイレに行くためのスタンドが取り付けられているなど、入居者が過ごしやすいための工夫が随所に見られた。リビングのテーブルには季節の花が飾られ、優しい和やかな雰囲気が伺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 理念を共有し、それに基づき実践できている。 | 理念は廊下に掲示し、必ず見る介護記録の一番上に挟んでおり、また申し送り時に復唱してスタッフ全員で共有している。毎月の職員会議時には、「入居者の訴えに耳を傾ける」「入居者にストレスがかからないように」と、入居者の思いに寄り添ったケアに努めることを確認しあっている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の行事に参加できる利用者もいるが、重度者もおられ、地域との交流の度合いに差ができています。又、感染症の防止の為、今年は地域の方たちと交流ができない状態が続いている。 | 地域の方が野菜を持って来てくれたり、公民館で行われる老人会の集まりに出掛けたり、デイサービスの催しに参加したりしていたが、今年度はコロナの影響で、地域との交流はほとんどできていない。 | コロナが落ち着いた際には、地域との日常的な交流や催しへの参加等が再開されることが期待される。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議の委員が地区の方が多く、情報の交換はできている。たまに、入居に関する電話で相談を受ける機会があり、認知症の説明等を行っている。 | / | / |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回運営推進会議を実施している。実績報告や現状の報告を行い、外部評価の受審についても報告を行っている。 | 区長・老人会長・民生委員・婦人会長・市担当者・利用者家族をメンバーに2か月に1回開催している。入居者の状況報告・活動報告等の後、意見交換を行っている。地域の協力を得ての避難訓練について協議を行ったり、災害時に地域の一人暮らし高齢者をホームに避難させることができないかといった相談などもあっている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 市町村担当者とは連携が取れており、運営推進会議への出席もできている。 | 運営推進会議には毎回、市担当者の参加を得ているとともに、運営上の疑問点等を気軽に質問したり、提出物は持参して話をするなど、協力関係が築かれている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束に該当する行為、ケアは行っていない。 | 各事業所2名の委員で構成された法人の「身体拘束適正化委員会」を3か月に1回開催しており、センサーマットの設置・取り外しについてなど、具体的事例の検討を行っている。また、ホームの研修会で、身体拘束のないケアについて話し合い理解を深めている。入居者への言葉遣いは、禁止する言葉ではなく、「どうしましたか？」と話を聞いて、信頼関係をつくることを心掛けている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 3ヶ月に1回定期的に身体拘束適正化委員会を開催し、グループ全体で取り組んでいる。全職員が一人一人虐待に繋がらないようにしている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現時点では利用されている方はいない。必要な場合は説明を行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約締結時は十分な説明を行い、理解していただけるようにしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議にも順番で参加していただき、意見、要望を伺っている。また、管理者、職員に直接要望等を言われることもある。 | 家族の面会時や運営推進会議への出席の際、また電話等で意見・要望等尋ねるが、「助かります」というお礼の言葉が多く、意見・要望等はほとんど聞かれていない。コロナ禍で面会が困難な中、入居者の状況を気遣う家族が多く、敬老会の際に日常の写真、及び担当者の自己紹介と入居者の近況を伝える手紙を家族に送付しており、安心に繋がっている。 | 入居者の近況報告と写真の家族への送付は、今後とも定期的に行われるとさらに良いと思われる。また、今年3月に計画していた家族会がコロナの影響で中止になっており、ホームへの自由な出入りができるようになった際には再度、計画されることが期待される。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回職員会議を開催して、利用者様の情報の共有と職員同士の意見交換を行っている。 | 職員会議で入居者の情報交換や対応を検討している他、日常業務の中で必要に応じその都度居る職員で話し合いを持っている。入居者への対応や業務改善等への職員の意見・提案は活発に出されており、まずやってみて、そのまま取り入れたり再検討するなど、意見を反映させている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | シフト作成時に希望休等を聞き、必要な休日は取れるようにしている。パート職員に関しても時間帯の希望に添えるように配慮している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 毎月桃寿苑と合同で勉強会を実施している。会社全体での勉強会も行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他の同業者との交流はない。同会社内の他のグループホームとは勉強会や相互訪問をし、意見交換等はしている。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人の思いを感じ、理解できるよう話しやすい声掛けを心がけている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | サービス導入前には本人とご家族で施設の見学に来ていただいたり、面談時に希望やご家族の思いも聞かせていただいている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | サービス利用前よりアセスメントを行ったり、ケアマネからの情報招集を行い、グループホームでの対応が適切なのか、他のサービス利用がよいのかの判断し、家族と共有している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 食堂、居間で他の方と一緒に過ごす時間を多く設けて、職員も同じ空間と一緒に過ごすようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | グループホームでの生活状況を2ヶ月に1回の苑だよりで報告している。また、病院受診時には家族に付き添っていただいたりしている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 面会等での来苑はあっているが、在宅生活時のようには交流はできていない。 | 従来、友人・知人の面会があったり、デイサービスに知人に会いに行ったり、家族の協力を得ての外出・外泊等で馴染みの関係継続支援に努めている。コロナ禍の現在はドライブで家を見に行ったり、電話での関係継続支援となっている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士での声掛けも多く、よく気にかけておられる。生活リハも一緒にされることもある。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所された家族に電話等でこちらからは連絡はしていないが、街中等であった時に近況を伺ったり、相談にはのっている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居時、入居後も本人の訴えには耳を傾けている。常に対話をし、希望に沿える支援をしている。 | コミュニケーションを大切にしており、ほとんどの入居者が、「あれ買って来て～」など、職員に要望を伝えている。編み物が得意な人、毎週夫に手紙を書く人、パズルや脳トレが好きな人など、それぞれに必要な物を準備し声掛けをして、意向に沿った生活ができるよう支援している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 在宅でのケアマネからの情報収集、入居前一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 本人、家族、担当ケアマネから情報を収集し、支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 職員全員から情報招集を行い、本人、家族や主治医も参加してもらって、担当者会議を行い、プランの作成をしている。ケアマネから施設計画書を基に支援している。 | 3か月に1回、担当者がモニタリングを行ってケアマネに伝えている。主治医の都合に合わせて、家族の参加も得てサービス担当者会議を行い、プランの更新を行っている。本人・家族の意向を大切にプラン作成を心掛けている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個人個人の記録を行い、昼間、夜間の生活状況を職員間で共有し、それぞれでモニタリングを行って、次の計画を立案している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人の能力に合わせた対応。例えばドライブ、買い物、散歩を行っている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の催し物等に参加することはあるが、ボランティアで来ていただくことが多い。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 月に2回の主治医の往診を受けられている。その他必要に応じて受診介助を行ったり、家族に協力をお願いしたりしている。救急搬送が必要な場合は付き添いを行っている。 | 入居前のかかりつけ医を継続しており、全員が月2回の往診を受けている。馴染みの医師であり、状態に変化があればすぐに連絡して指示を仰いでいる。歯科・眼科も訪問診療がっており、適切な医療受診の支援が行われている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 入居者の日々の変化は朝夕の申し送りを行っており、看護職を含めたその日の勤務者で共有している。必要に応じて主治医の指示をもらっている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には付き添いし申し送りを行ったり、サマリーを提供している。入院中も面会や病院の担当者との連絡を取り合っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時に説明を行ったり、状態悪化の場合にはその都度家族に報告し、救急搬送などに相談を行っている。急変時の対応については主治医とも連携が取れている。 | 看取りを行う方向での指針は作成したものの、看取りケアについての研修や人員体制・医療機関との看取りに関する連携等、現段階で看取りを実施する体制は整えられていない。なお、本人・家族へ重度化した場合の対応についての意向確認を再度行うこととしている。 | 看取りを行うのであれば、看取りに関する医療機関との連携や職員研修などが望まれる。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 昨年は消防、AED業者に依頼し、全体の勉強会をしている。AEDも設置している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 地域の方々に協力してもらい避難訓練を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大により感染防止の為実施できないでいる。また、車椅子を使用している入居者が多く、最適な誘導方法が確立できていない。 | ホームが2階にあるため、火災を一番懸念している。通報訓練・消火訓練等は行ってはいるものの、5人いる車いすの方をどうやって1階に下ろして避難させるのか、確立していない。なお、食糧備蓄は準備できている。 | 法人全体での検討や運営推進会議での協議等により、併設施設との連携体制・地域との協力体制の構築を含め、早急に避難方法を確立することが必要と思われる。 |

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

| | | | | | |
|----|------|--|---|--|-------------------------------|
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 会議等で繰り返し指導しており改善見られるが、まだ馴れ馴れしい言葉使いになったりしている。継続的に教育が必要と思われる。 | なるべく丁寧に、相手を不快にさせない言葉遣いとするよう指導している。入浴時はバスタオルで隠したり、排泄時はカーテンを閉めるなど、プライバシーに配慮している。 | 目隠しのないトイレには、目隠しを作ることが必要と思われる。 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入居者の話をしっかり聴き、望まれていることを可能な限り実現できるようにしている。職員の価値観でケアを行わないようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員個人で物事の決定をせず、その日の勤務者で話し合いながら対応している。決まり事を作らず、その日の入居者の気分や入居者のやりたいことを優先している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 入居者の個人個人でその日の服装を選ばれている。着替えの際も本人に確認してもらって着る服を選んでもらっている。美容室、理容室に連れて行くこともあり、また、ヘアカラーを職員が行うこともして入居者も喜ばれている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の準備や片づけはほとんど職員が行っているが、たまに、下膳を手伝ってくれる入居者もいる。おやつ作りは時々入居者と協力して作っている。 | 昼・夕食は併設の有料老人ホームの厨房で作られており、ホームでは朝食のみつくっている。職員一人が検食として同じものを食べている。行事食も厨房でつくるが、入居者の意向を踏まえて敬老会ではホーム独自に刺身を追加したり、母の日に焼肉パーティーをしたり、花見弁当はホームでつくって花見に出かけたり、時にはお好み焼きや白玉団子と一緒に作るなど、楽しい食事の工夫がみられた。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 入居時は食事が上手くできなかった方も自立で楽しく食事をされる様に苦手な物は提供せず本人に好ましい物を出して対応している。毎食の食事摂取量はチェックし、摂取量が不足している時は捕食、栄養飲料を提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後に全員口腔ケアを実施している。必要に応じて歯科受診(往診)も依頼している。定期的に口腔内のケアを歯科より受けている入居者もいる。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個人に合わせてトイレ誘導を行っている。日中は尿意がない方もおられるので時間を見て声掛けを行い誘導するようにしている。夜間はPトイレ使用や希望される入居者のみオムツを使用している。 | 日中は全員、時間や表情を見てトイレ誘導している。夜間はトイレに行く方、ポータブルトイレ使用の方、パット交換の方など、個々に応じた対応をしている。病院からの入居で、食事あまり摂らずトイレに座れなかった方が、食べて立てるようになり、トイレ誘導で排泄できるようになり、パット使用量が減った例もあるなど、排泄の自立支援に努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘予防に朝から乳製品(牛乳・ヤクルト)を提供している。また、昼などにヨーグルトをデザートとして出している。個人に合わせた運動も行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴は体調が良ければ基本3日に1回は入ってもらっている。また、入浴希望される時にはその都度入れるよう支援している。時間は本人と相談し、午前午後と希望に合わせて行っている。 | 入浴は少なくとも週2回、希望があればその都度入浴できるよう支援している。入浴時はマンツーマンで、一番コミュニケーションが取れる時間であり、昔の話や家族の話などのおしゃべりを楽しんでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中の活動を活発にするため、リハビリ等を行っているが無理強いはしないようにしている。昼食後の昼臥床をされる方は多くいる。夜間眠れない方には無理に寝かせようとせず、自然と眠くなるまで付き添ったり、見守るようにしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の細かいところまでは職員全員が理解しているとは言えないが、病歴等については理解できているので、状態の変化時には早めの対応を行うようにしている。内服介助はダブルチェック等行い誤薬防止に努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 洗濯物たたみやいただいた魚をさばいてくれる方はいるが、身体的に重度の方が多く役割が持っていない方がいる。毎月イベントを開催しているが、長時間の参加は無理がある。気分転換のドライブも参加する方は決まっている状態である。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 本人の希望で買い物に付き添ったり、家族の協力で美容室に行ったりしていたが、新型コロナウイルス感染防止の為に外出の頻度はかなり少なくなっている。気分転換の為に施設周りの散歩は希望があれば行うようにしている。 | 初詣や桜・あじさい見学に出掛けたり、時には気分転換にドライブを楽しんでいる。また、日常的に1:1でホーム周辺を散歩したり、夏には駐車場で流しそうめんをしたりと外気に触れる機会をつくっている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 家族公認で自己管理でお金を所持している方もいる。自己管理が難しい方は、事務に必要な時に使えるように預けてもらい管理してもらっている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話したいと希望があれば職員がかけて電話できるようにしている。携帯電話を所持している方もいる。ご主人と手紙のやり取りをしている方もいるので、手紙を書かれたら届けるようにしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間、廊下などには協力して作った貼り絵や苑だよりを展示している。季節を感じていただけるようにいただいた花を飾ったりしている。休憩ができるようベンチを配置している。 | 廊下には、純心苑だよりや実習生と一緒に作った貼り絵などが飾られ、所々に長椅子を置いて休憩できるようにしている。リビングのテーブルの上には季節の花が飾られ、優しい和やかな雰囲気となっている。訪問当日、入居者と職員がリビングで楽しく過ごしている様子がみられた。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用空間では自分用の雑誌を置かれたり、新聞を置いている。テレビなども設置している。入居者の状態を観察し、その時に応じてトラブルがないよう席の配置転換を行うこともある。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 布団や整理用タンス等は自宅で使っていた物を持ち込んでもらっている。居室は自由に使うようにし、足りない物や欲しい物を訴えられる時は家族に連絡し、持って来ていただいたり、購入して本人が快適に過ごせるようにしている。 | それぞれにタンス・テレビなどを持ち込み、ぬいぐるみ・小物・写真などを飾っている。また、編み物が好きな人は毛糸、パズルが好きな人はパズルのピースが置かれているなど、個々の日常が伺える居室となっている。また、居室入り口にはそれぞれ個性ある表札が付けてあり、ベッドには自分で起き上がるための紐や、自分でトイレに行く為のスタンドを取り付けてあるなど、一人ひとりに自分らしく居心地よく過ごしてもらうための工夫が随所に見られた。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室入り口には表札をかけて自分の部屋が判るようにしている。廊下には休憩ができるようにベンチを設置している。 | | |